

税金で救える命

上野学園中学校3年 鈴木 まなつ

「救急車が通ります。道を開けて下さい。」

救急車、消防車、警察のサイレン。この音は私たちの生活にとって珍しいものではない。最近救急車の出動が増えたのは新型コロナウイルスのせいだろうか。

日本の救急車は税金によって無料で利用できるようになっている。その事について皆さんは真剣に考えたことがあるだろうか。「三十八秒に一回」八十二万五千九百二十九件。これは令和元年、東京都内で救急車が出動した回数だ。一回の出動におよそ四万五千円かかると言われ、出動件数は年々増加傾向にある。正直な所、私は有料でも良いのではないかと思っていた。軽症でも救急車をすぐに呼ぶ人がいると聞き、本当に適正利用されているのか疑問に思っていたからだ。

だが、その認識が変わったのは今年の四月の事だった。通学中に喘息の発作が起きて救急車で搬送されてしまったのだ。その時の私は周りの方々に迷惑をかけてしまった申し訳無さでいっぱいだった。更に、その後に見たニュースで驚いたことがあった。そこには熱中症やコロナの症状で倒れても救急車を呼べないと訴えているアメリカ在住の男性が映っていた。なぜなら、欧米では救急車の料金は日本円にして九万円と非常に高く、更に医療費も保障されないからだ。知っていたことなのに、命に危険がある重症患者が救急車を呼びたくても呼べない状況があることに驚きが隠せなかった。

この事をきっかけに海外の救急車について調べてみた。救急車の要請が無償な国はスウェーデンやイタリア、イギリスなどがあるが、色々な条件があるようで、日本のように完全に無償の国は無いようだ。このように、日本は大変恵まれていることが分かる。それなのに、日本の中には海外の救急車が有料な事を知らない人が沢山いる。あの時私が救急車を呼べたのは、この日本という国に住んでいたからだ。自然と感謝の気持ちが湧いてきた。

税金は、私たちの生活をより良くする為に使われている。私たちの教科書は無償で、更に授業も毎日受けられる。蛇口を捻れば綺麗な水が出てくる。ゴミを回収してくれる人がいる。具合が悪ければ、治療費の負担が少なく治療を受けられる。そして救急車のように、誰かを救う為にも使われているのだ。私はそれを当たり前だと思っていたのかもしれない。もし税金が無ければ、私たちの生活はここまで豊かではなかったのだ。私は自分の考えの浅さがとても恥ずかしくなった。

どこか他人事のように考えていた税金は巡り巡って、社会全体の為に、そして一人一人の為に使われている事に、自分の体験を通じて改めて気付かされた。救急車があることで救える命があるのであれば、無償のままであって欲しいと思う。そして私も大人になった時に、税金の役割や何に使われているのかを意識して払っていこうと思った。